

農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点

ず～むあっぷい★ オホーツク

チャイブ（ハーブ）の花/ミミちゃん農園

土づくりで実現、アスパラガスで「みえるらべる」星3つ取得！
ミミちゃん農園（北見市）



【永井達哉さん
隆子さん
ご夫妻】

【アスパラガスの陳列状況】
（コープさっぽろ（北見市内））



【みえるらべる】

ミミちゃん農園の永井 達哉さんは、民間企業を経て1990年頃に就農しました。

もともとは宿根草※を中心とした花き農家でしたが、航空便の減少などによる物流問題や、近年の夏の暑さなど気候の変化を背景に、現在はアスパラガスのほか、白ナスやいんげん、かぼちゃなど多品目の野菜を栽培（約1ha）しています。

土づくりにこだわり、多くのミミズが生息する土壌であることから、「ミミちゃん農園」と名付け、不耕起栽培や有機肥料の活用、多品目栽培を基本とする「環境再生型農業」を実践しています。

早朝に収穫されたアスパラガスは、北見市近郊のコープさっぽろの「ご近所やさい」直売コーナーやネット通販で販売（5～6月）されています。

2026年には、農林水産省の「農産物の環境負荷低減に関する評価・表示ガイドライン」に基づく「みえるらべる」において、温室効果ガス削減で3つ星を取得し、環境への貢献度を消費者にアピールしています。

※一度植えれば根がある限り毎年楽しめる草花

～多様な生物が支える持続可能な農業～

永井さんは、「ミミズや蜂・蜘蛛をはじめ、多様な生物が共存することで、生態系のバランスが保たれる。単一作物に偏らず、複数の野菜や花、樹木を組み合わせることで、土壌微生物の働きが活発となり、害虫の発生も抑えられる。こうした多様性の確保が、持続可能な環境再生型農業の実現につながっている。特に、ミミズは土壌改良、蜂は受粉、蜘蛛は害虫抑制など、それぞれが農地を支える重要な役割を担っている。」と、農業環境における生物との共生の大切さを語ります。

～土をはだかにしない～

ミミちゃん農園では、ミミズや微生物が継続して生息できる環境を整えるため、土を起こさない「不耕起栽培」を実施しています。

また、植物を枯らさず、生きた根を土中に残すことを基本としています。雑草についても、土壌を保護し微生物を増やすなど、自然の循環を支える存在として位置付け、完全には排除していません。

さらに、土中の細菌や微生物、毛細根を守るため、油かすや有機のアミノ酸肥料などを自ら調合・発酵させた有機肥料を使用しています。



【アスパラガス（ネット通販）】



【農園ロゴマーク】